

野依小学校のE S D活動

＜活動の概要＞

- 「地域や社会の発展に主体的・協働的に参画できる子どもの育成」をテーマに、地域の老人会の方々との交流やトマト農家の見学やインタビュー、米作りなど、校区の「ひと・もの・こと」と深く関わりながら体験的な学習を進めている。
- よりよい地域のあり方について探求することを通し、ふるさとを愛する心情を育み、更に地域の課題を見出して主体的・協働的に解決する力の育成に取り組んでいる。

・活動の実際

① 地域の「ひと」と関わる活動

1年生「昔遊びの会」

5年生「野依米でみんなスミル」



1年生は、老人会の方々を講師としてお招きし、けん玉・あやとり・お手玉・こま回しを教えていただいた。昔遊びを通して笑顔で交流をする中で、自分たちが地域の方々に大切にされていることに気づくことができた。

野依は梅田川の恵みを受け、豊かな田園が広がる地域である。5年生では、校区健全育成会と連携し米作りの体験を行った。作業のやり方やコツを繰り返し教えていただく中で、「なぜ私たちの手伝いをしてくれるのかな」と地域の方々の思いに深く関心をもつようになった。野依の人々を笑顔にしたいという願いをもった子どもたちは、米作りの方法だけではなく人とのつながりも下級生に引き継いでいきたいという思いを高めた。



② 地域の「もの」と関わる活動

2年生「のよりの町をタンケンジャー」

3年生「すごいよ『農業王国 野より』」

3年生は、トマト農家や選果場で働く人の思いに感銘を受けたり、日本農業賞や農林水産祭の天皇杯を受賞していることを知ったりすることで、豊橋のトマトのおいしさを自分たちがもっと広めていきたいという思いを高めた。

2年生は、校区にある野依八幡社、あゆ養殖場、野口牧場、JAなどを探検した。「野依には素敵どころがいっぱいあるね」とふるさとの魅力を再発見することができた。



③ 地域の「こと」と関わる活動

4年生「未来へつなごうシダレザクラ」

6年生「みんなが野依のポウサイマンに」

4年生は野依八幡社のシダレザクラの歴史を調べ、校区の自慢であるシダレザクラをこれからも大切に守っていくために自分たちができることを考え、学習発表会で発表した。

南海トラフ地震について調べた6年生は、学校や自分の家の地震対策について見つめ直した。起震車体験や校区の防災倉庫の見学をし、減災の観点で地震対策していく大切さを学習発表会で発信した。

